

博多祇園山笠・男たちのトリコロール

Hakata-Gion Yamakasa・TriColore at Men

長井真智子 Machiko Nagai

エムズカラー M's Color

キーワード：まつり、文化、伝統、久留米餅、識別、

Keywords : festival,Culture,Tradition,Kurumegasuri,Discrimination

1. はじめに

山笠というのは、元々は神社の祭礼で用いられる神輿・山車状の祭具のことである。主に北部九州での祭礼で見られ、それらの祭礼の略称にも「山笠」が用いられる。その中でも全国的に有名な博多祇園山笠は櫛田神社の奉納神事として1241年が起源という古い歴史を持っており、数々のしきたりや戒律を守り通し伝承している。時代の波に翻弄されたり社会情勢の変化に応じてやむを得ず形式が変化して来た部分もあるが、博多には山笠による独特の文化、社会があり1年が廻っていると言っても過言ではない。豪華絢爛だが動かない「静」の飾り山に対して、締め込み姿に白い法被の男たちが駆け抜ける勇壮な「動」の昇(か)き山。今回山笠の歴史や決まりごとに関して色彩の役割がどのように関係しているか注目した。

2. 調査方法

大黒流総合世話人会代表者に直接聞き取り調査をした他、博多祇園山笠振興会、福岡市立博物館、福岡市立美術館資料、西日本新聞社博多祇園山笠 Web サイトを参考にした。

博多祇園山笠の起こり

- 1241年 疫病退散祈願のため施餓鬼棚から甘露水をまいたことが博多山笠の起こり。
- 1587年 太閤豊臣秀吉の博多町割り。秀吉が九州征伐の折焼け野原となった博多の町づくりを指示する。大宰府の方角を流(ながれ)の上手として基準線の方角を決めたことが博多部七流の始まり。いわゆる四水、四応、四神相応の計画を立て、博多の町を七条の袈裟になぞらえる

七七四九願を表し、博多を一山の七堂伽藍に例えた。(七流・七小路・七厨子・七堂・七口・七観音・七番)

七流とは大黒流・中洲流・土居流・西流・東流・恵比寿流・千代流である。1241年から数えると実質的に760年以上も続いて来たのはおそらく、流という自治体を持っているからであろう。

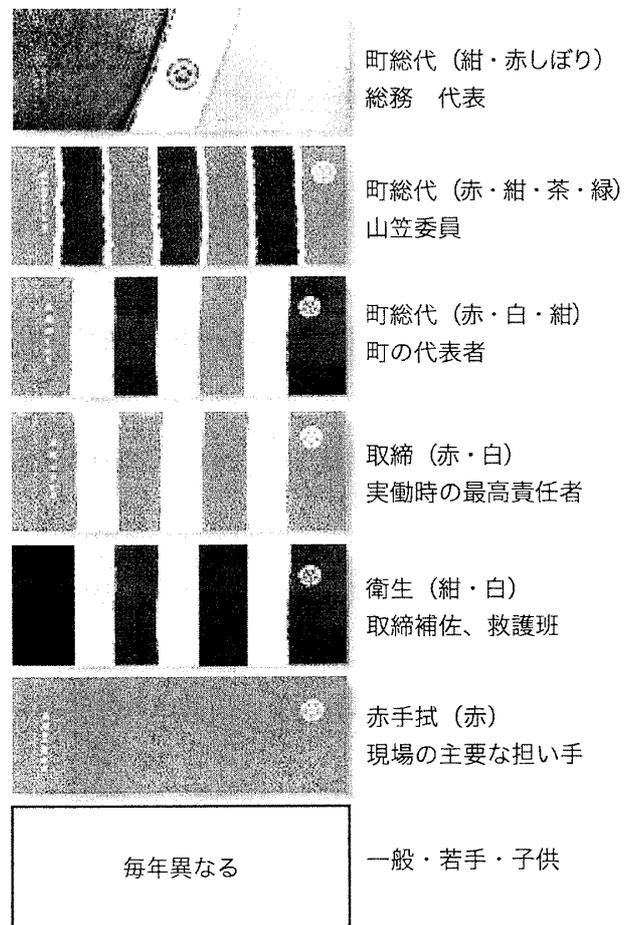
1687年 追い山笠の始まり

1949年 博多祇園山笠振興期成会結成

1955年 博多祇園山笠振興会に改組

年令階梯制による役割を表す色彩

・役職によって色と意匠が異なる手拭い(てのぐい)



・山笠進行時の役割を表すたすき



台上がり (赤・白) 台の上から舁き手の指揮を執る役割の者だけが身につけることができる。
 鼻取り (青・白) 山笠の四隅で舵を取る役割。
 前さばき (黄・白) 山が進む道を空け運行を司る。
 交通 (緑・白) スムーズな運行と交通整理担当。



装飾関係での色彩の決まりごと

左巻き 杉壁上部の「横笛」に巻きつけ装飾する2色の帯状の布で、据山(すえやま)の時は茶・白、動くときは浅葱・白のものに巻き替える。

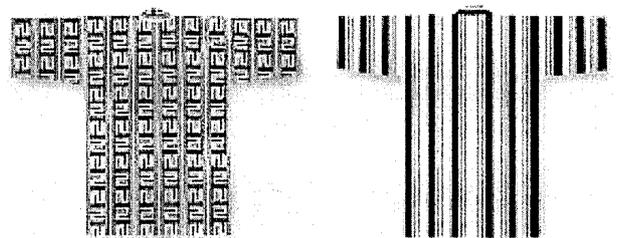
台幕 山台の周囲に取り付ける幕。据山の時は朱、動くときは紺のものに付け替える。

しなえ 山笠の見送り側に斜めに立てる台差し旗。祇園宮の紋や流名などが染められている。据山の時は朱、動くときは紺のものに差し替える。

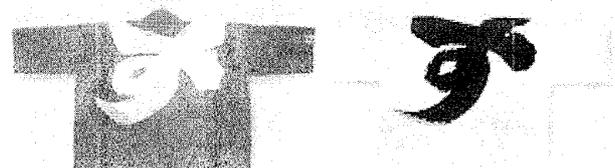
山を据えている「静」の時は晴れやかな朱色であり、舁く「動」の時には紺色に差し替えるというような例は聞いたことがない。伺ったところによると、紺の分量を多くすることによってアクセントカラーとなった少量の赤がより際立つからだということである。紺と白で赤を支える、まさに配色の美学だ。

法被の染色とデザインの変遷

法被には2種類あり山笠を舁く時に着用する「水法被(みずはっぴ)」と、それ以外の時にはおる長めの「当番法被」がある。七流総て久留米紺の染めによる。紺一色の当番法被もデザインは各流によって様々で種類も多いが、縞柄やチェック、幾何学文様などの直線使いがほとんどで、きりりと粋な感じがする。当番法被は山笠会期中は正装とされていて一流ホテルでも堂々と出入りできる。



福岡市立博物館所蔵



浅葱の水法被(役員用)

水法被

博多は7月1日から15日までは男たちの暑い日が続く。タイムを競う追い山が15日早朝4:59に始まる理由は「博多祝い唄」を歌う1分間を考慮してのことだ。スタート直前の櫛田神社清道は白の水法被の男たちで埋め尽くされる。神事にふさわしい精神性を表す緊張感が張りつめる。東の空が白む頃追い山は終了し、櫛田神社では荒ぶる神を鎮める能が舞われる。再び「動」から「静」へと戻って行く幻想的な時間だ。色彩豊かな飾り山とは対照的な、厳しい白と紺そして赤の舁き山。

トリコロールは博多の男の美学の色なのである。

協力：博多祇園山笠大黒流総合世話人会代表
内藤博文氏

参考文献：

- [1] 博多祇園山笠振興会「博多祇園山笠」平成9年版、10年版、14年版、16年版、18年版
- [2] 西日本新聞社 保坂晃孝著「おっしょい！山笠」
- [3] 博多区役所まちづくり企画推進課「博多の歴史」